

ちよあ

第 8 号

平成12年5月
千代田岳精会報

課題吟の練磨、昇伝の演習は、正月から始まり、花の真盛り四月に最高潮に達し、夫々の想い出を残しつつ終了しました。花の名勝地、歴史の街「市ヶ谷」での開催は、選定に尽力された岩崎教場長のお陰、非出場の諸先輩のお力添え、そして何にもまして当日、審査本部の滝田、岡村両先生の親身も及ばぬご指導等、紙面を借りて厚く御礼申し上げます。さて、前回もふれました様に、昇伝とは①教場長が全員の吟の成功を祈って、懇意の情を興す日②家族の大きな声援に送られて門を出た日③終れば、学期末試験終了のような達成感、解放感を味わう日である。

まず、会員の皆さんのが選定吟題を聞いてみると

- ①十一年度、十二年度課題吟
- ②自分の好きな漢詩（感動した詩、出会いの歴史の詩）
- ③得意の節調（吟じ易さ）
- ④教場長、先輩の推薦
- ⑤その他

①が圧倒的に多かったけれども②と③も結構有り、中にはC型の短歌もあって、将来自分の持歌として夢があり興味深かつた。

会長 飯田 龍鷹

☆ 平成十二年度行事

昇伝（昇段・級）審査
市ヶ谷宮崎県東京ビル

六月廿五日（日）九時—一七時

一般合吟（男女全員参加）
夜墨水を下る 服部 南郭

八月廿一
太初夏
廿一
日月

十一月三日（祝）

十一月十二日（日）

十二月

千代田岳精会温習会
日程及び会場 近日決定



夢は全国大会に出席



◇川邊正美さん

私の元の職場の後任者です。教場開設の話をしたら快く来てくださいました、心優しい方です。

◇富沢洋子さん

川邊さんの同僚で健康に良いと進んで来て下さっています。歌会員の方々はお勤めの人気が殆どが有るときは第二、三、四火曜日です。

◇西田洋子さん

仕事の上で私と長いお付合いです。社内事情にも詳しい才色兼備の明治生命元秘書、飯田会長に誘われて、私と一緒に見学に行つた想い出があります。

◇青木恭子さん

大田君江さんの紹介で、すでに東陽町教場にもお顔出しされ、太くボリュームのある声で、磨けば

◇山手純子さん

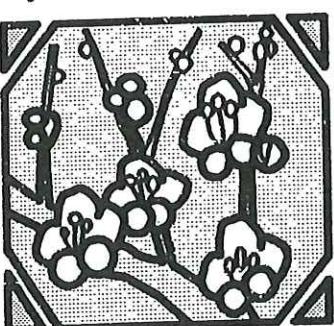
清水教場の山手栄三さんの奥さま、ご主人と同じ趣味を持ち、同じ話題を交わしたいと入会されました。

◇藤沢寿子さん

次に、現在教場で吟に励んでおられる若さと美貌の皆さんを紹介します。

暫く休会されましたが、教場長のご配慮を頂き復会、飯田会長の歌教室の美声のメンバーです。

松本さんの同僚で歌教室にも顔を出されており、声も姿もモダンです。



千代田岳精会で初めて女子会員を指導する八番目の教場が一月に開設されました（教場長菅原琴山 準師範）

当会の体制もこれで益々の充実と発展が期待されます。
今後の菅原教場長のご活躍と教場の成長に皆さんのご支援をお願い致します。

○菅原教場長のご挨拶

丸の内女子教場は平成十二年一月十八日開設のお披露目をいたし、二月より飯田会長始め諸先生のアドバイスやら叱咤激励を頂き、よちよち歩きながら何とか今日に至っております。

開設と申しましてもゼロからのスタートですから会員さんを集め会頂いた新会員方への為にも精魂こめて精一杯指導させていただきます。

また、指導者として指導できる喜びを感じられるよう努力しなければなりませんが、何かと不慣れなためオタオタしております。

ご協力頂く磯田副会長、鈴木先生には土台骨であるコンダクター

教場スケジュー

鍊水教場紹介 菅原 克山

千代田岳精会七番目の教場で、山手線大塚駅から三分の日本鍊水ビルの中にあります。

正練習日（井手先生のご指導日）第一・三・五は副練習日（復習日）一次練習が六～七時半、その後二次練習があります。一次練習は普通の練習ですが、二次練習は所変わつて駅前の「長寿庵」というお蕎麦屋さん。

ここでは健康飲料の「蕎麦焼酎の蕎麦湯割り」を飲みながら、批評したり、ひやかしたり、仕上げは盛り蕎麦（これが又おいしい）九時になると暖簾を仕舞つて二次練習、この時は神風流のママさんも加わつての、吟の交換会。それからの副練習が一寸変わつていて、合吟の復習後、一人ずつ録音し、自分を含めて講評します。時間は倍かかりますが、恥ずかしくも自分の吟を聞いて、一層上達するものと思っています。

こうして毎週楽しい月曜日の夜を過ごしています、お近くへお越しの際は、是非お立ち寄り下さい。

「墨の濃い吟を」昇伝審査終わる

平成十二年度の昇伝（段・級）

審査は四月廿二日、滝田精芳（本部副幹事長）岡村龍栄（蕨教場長）

両先生に審査をお願いして市ヶ谷の宮崎県東京ビルで行なわれました。

受審者は初めての方から五段までの百十三名でした。

中伝審査十三名、初伝審査廿四名は課題吟、段・級の方々は得意の吟題で教場毎の審査でした。

はじめに滝田先生より「本来全ての審査を行なうべき宗家の代理として参りました。出せる力を一杯に使って、墨の濃い吟を基本に詩情、表現に心がけて吟ずるようになります」と挨拶があり、受審者一人一人に吟に対する心構え、姿勢から習得手帳の使い方、技術的なポイントについて的確かつ懇切にご指導をいただきました。

終了後両先生から「全体としてよく指導されていると思う。これだけ多くの審査が出来、うれしく思います。とくに高段者の方々には厳しく申し上げた、益々のご精進を期待します」との講評を頂きました。

夫々の方が日頃の実力を十二分に發揮されたと思いますが、この日を契機に更に一段の向上を目指しました。

初伝合格によせて

丸の内第二教場 堀 哲泉

詩吟を始めて足掛け五年、この度の昇伝審査で初伝に合格、久々の緊張感と安堵感を味わいました。

今回は、従来一本で吟じていたのを岩崎教場長のご指示で二本で挑戦のため、若干の不安を持っていましたが、ご指導の宜しきを得て概ね達成出来たことは大変うれしい限りです。

講評で「声量・元気あるも荒けづり、更なる精進を」との懇切丁寧なご指導をいただきました。

これからは吟譜の基本をしっかりと身につけ、発声の完成に努めると共に、高声と哀調そして両方の調和の習得に、さらなる研鑽を重ねながら楽しい吟詠を続けて行きたいと念じています。

夢中で審査を受けて

清水教場 溝口 恒徳

吟を始めた動機は吟の先達から再三の勧誘で、腹の底から大声を出し、直後の旧友との一杯が身心の健康に顕著な効果ありという。それに乗せられ、昨年二月から清水・東陽町教場半々で指導を受けた。正直のところ審査会には自分が満足する吟声となつてから受審したかった。

当日の審査員は、漢詩同好会でご一緒の岡村先生であつた。

新人はトップ、发声練習なしでぶつけ本番、所定の声が出るか不安であったが、まず吟題「花を惜しむ」と作者名を言う。息を吸つて第一声、オヤ一寸高くファッとした。後は磯田先生から言わっているアクセントへの注意とか詩情を入れるなどの余裕もなくただ吟じて席に戻った。

初審査の四人も全くあがる事なく吟じ終え、むしろ後半の有段者の方が失敗するのではないかと皆が心配する程でした。

小生は「山中問答」を吟じ終えました。後の反省会（祝杯）で口は大きく開ける、アはあくびをした時の口ですと言われ、ハタと我が口は十分に大きく開いていたのだと気がついた次第でした。

講評ではコンダクターを弾かれての懇切なご指導を受け、やはり品のある吟声を求めて何年吟じられるか「継続は力なり」を信じこれからも吟と酒を楽しみにして二十一世紀を眺めたい。

昇伝審査雑感 葉桜や 個性それぞれ 吟の友

四月廿二日宮崎県東京ビルで千代田岳精会昇伝審査が行なわれた。

三回目の出席ながら多少緊張気味、控室ではカリンのエキスや喉あめを周囲に奨めたりと微笑ましい光景。

会場では審査の滝田先生を中心にお歴々が正面に座られる中、入会順に吟詠が始まる。

滝田先生の講評は素晴らしく精一杯の吟、墨の濃い吟を基に詩情個性を伸ばすのが基本とのお話。

一人一人の技術面をはじめ姿勢に至るまで、木目細かく、また高度な選曲をした吟詠者の挑戦意欲を讃える等心籠るものであつた。会長の「立派な吟であつた」との挨拶で明日への前進を確信しました。

吟のエピローグと言える打上げ会、明快な赤根惇泉氏司会の楽しい宴で一日は終わつた。

改めて学んだ吟の感動
丸之内第一教場 山口 富美子

うららかな春の陽が心地よい季節を迎える前の雨もすっかり上り日本晴れの昇伝審査の日です。私も丸之内第一の開始三十分前に緊張の雰囲気の中集会しました。本部からお迎えの滝田精芳先生のご挨拶で「普段の実力の七〇%肩の荷が軽くなつた気がしました。吟じられれば」とのご指示を頂き落付くよう自分自身に言い聞かせ私なりに吟じる事が出来ました。最後の滝田先生の総評の時に突然私は「もう一度吟じて下さい」先生は一人一人の態度、息つき、止め等を非常に細かく聞いていました。「母音は歯切れ良くはづきりと、止める所はきちんと止める事を練習して下さい」「今日の大きな収穫です」とご指示を受けました、これからも常にご指示を頭の中に入れ、前向きに吟の道を精進していきたいと思います。最後に今日の会場をご手配頂いた岩崎先生に感謝しつつ充実感を満ち溢れて帰路につきました。

丹田に力を込めて大声で

ハザマ教場 鈴木 忠司

岳精会に入会以来、私は二度目

の昇伝審査を受けました。

審査は岡村龍栄先生で広瀬淡窓作「西教寺を訪る」を吟じました。

講評は總体的には良かつたが出だしの部分がぎこちないので教場で先生の指導を受けるようにとご指摘頂きました。

私が詩吟を始めたいと思つたのは宴会で友人がマイク片手に楽しそうに詠つてゐる姿を見て声を出します。事が体に大変よいと考えたからです。

しかし現在は吟道の奥深さと難かしさを思い知られています。

ともかく詩吟の醍醐味はすぐれた詩人のロマン溢れる美しい詩を丹田に力を込めて大声を出して吟ずる事の壮快な喜びではないでしょうか。

今後もますます先生、諸先輩のご指導に従い大いに勉強したいと思つて居ります。

初審査の一 日

神田教場 渡邊 正江

昨年の五月、吟の道にお仲間入りさせて頂き、今回が初めての昇伝審査です。

宮崎県東京ビルの会場、あたり時代、何れの書物からか、誰から教わったかは定かでない。

この詩との最初の出会いは少年時代、何れの書物からか、誰から教わったかは定かでない。

中学三年生、昭和十七年配属将校二神中尉殿は、激しい軍事訓練の後の訓話で決まって言われた。

「支那の詩人曰く『國破れて山河在り』と言う、國が破れたら山河は無いんだよ」と、幼い軍国少年は敵に祖国の山河が蹂躪される悲痛と屈辱を思い、この詩が脳裡に見回しても誰一人緊張している様子はなく、初めての私だけが緊張して上がり氣味です。

また悪いことに今年初めて花粉症になり、目は涙目、頭痛はする

し、結果はどうであつても自分なりに落着いて頑張らなければ：と。

審査が始まり、最初に赤ちゃんのいらつしやる方が、綺麗な声で「村夜」を吟じ、いよいよ私の番です。

姿勢を正しお腹に力を入れ、大



『私の心に残る一詩』 その一

三年後日本は敗れた。

飯田 龍鷹

杜甫

春望

國破山河在

感時花濺淚

烽火連三月

白頭搔更短

城春草木深

恨別鳥驚心

家書抵萬金

渾欲不勝簪

きく口を開けて「桜花」を吟ずる事が出来ました。

岡村先生の講評では皆様と同様良い評価をして下さいまして頭が下がりました、私は落着かない一日でしたが、普段の練習の大切さを改めて痛感しました。



精銳十六人堂々の出吟

平成十二年度「全国吟詠コンクール神奈川県大会川崎地区予選」は四月三十日(日)二六〇人の出場者を集めて行なわれ、千代田岳精会からは十六人が参加して日頃の研鑽の成果を競いました。

見事予選を通過し五月廿一日の神奈川県大会への進出が決まつたのは、二部(五十・六十才代)で丸の内女子教場長の菅原琴山さん、三部(七十才以上)で神田教場長の林吾風さん、東陽町教場の渋谷辰泉さんの三方です。

神奈川県大会では、林吾風さんが激戦を勝ち抜かれ、七月の東日本大会へ進出されました。

全国吟詠コンクール予選通過 東陽町教場 渋谷 辰泉

前が呼ばれた時には流石に嬉しくこれでコンクールに備えて特訓をして下さった飯田会長や、日頃ご指導頂いてる磯田・岩崎両先生それに色々励ましてくれた吟友の皆さんのご期待に応える事が出来たなどほっとしました。

当日の開始は九時半、私の出吟は六番目の早さなので調整には苦労しました。吟は「己亥の歳」で出だしはコ

チコチになつていきましたが段々と落ち着いて、結句の「一将功成つて万骨枯る」何とか意図した吟が出来た様に思いました。それと私の前後の出吟者で調子の出なかつた方が多かつた様なのも審査に幸いしたのではと考えられます。

県大会では夢よもう一度といきたい処ですがレベルがちがうのでどうでしょうか。

詩吟の奥深さ ハザマ教場 長谷川 正男

終わつて判つた事ですが全国吟詠コンクール神奈川県大会一般第三部は県内三地区で七十才以上二一〇名から三七名を選び、第二戦でこの中から六名を決定し県代表として東日本大会に送るとどうどんでもないコンクールだったと言ふことでした。

待たされた審査発表で自分の名前が呼ばれた時には流石に嬉しくこれでコンクールに備えて特訓をして下さった飯田会長や、日頃ご指導頂いてる磯田・岩崎両先生それに色々励ましてくれた吟友の皆さんのご期待に応える事が出来たなどほっとしました。

最後の音程審査の森川先生の講評に承句まで五五秒前後、転句まで九一秒位、終つて一一六秒とい

う事です、計算すると転句は間を入れて三六秒有るという事です。これでは私の吟がCDに合う訳がありません。あまりの認識不足に恥に入るばかりでした。

「九月十日」の合吟特訓に続い

て今回も会長の熱意溢れるご指導に感動を受け吟以外に有意義な経験を得た事に感謝いたします、そ

して又CDに合つた吟はどんなにか楽しいものだろうかと想像して喜びが湧いてくるのはどうしたことが樂しいものだらうかと想像してどうでしようか。

吟ずる「カタチ」の試練 清水教場 徳本 順治

四月三十日、川崎市中小企業婦人会館で開催された川崎地区予選に、飯田会長のお勧めにより参加させて頂く機会に浴した。

当日は審査の先生方から、コンクールは一年間の練習の成果を発表する試練の日であること、音程発音・詩文・アクセントの大しさや服装に至るまでご注意があり、初参加の私には全てが新鮮で、詩吟は吟ずる「カタチ」が如何に大事であるかを痛感した。

私は今年の二月から本格的に詩吟を始めたため、三月初め予選に私は今年の二月から本格的に詩吟を始めたため、三月初め予選に勉強になつた。

結果は選に洩れたが、これを契機に早く諸先輩の方々に追いつくべく精進したいと感じている。

素晴らしい経験の機会を与え、親身になつてご指導下さった飯田会長、磯田先生、そして応援を頂いた吟友に感謝の外はない。

コンクールに初参加して 神田教場 大竹 和泉

四月三十日、かねてから一度は思つていた川崎地区予選に参加しました。しかし飯田会長、林先生のご指導にも拘らず、私の欠点であるアクセントミスとマイクの操作ミスも加わり落選した。

誠に懲愧の念に堪えないところで先生方にお詫び申し上げます。一週間前の初伝審査は目立ったミスも無く無事合格しただけにコンクールの厳しさが身に染みた。で先生方にお詫び申し上げます。

ミスも無く無事合格しただけにコンクールの厳しさが身に染みた。趣味の世界である我々の会では年功型(昇伝審査)の方が平穏であるが、コンクールは自由競争型だ、合格の為に今回感じた留意点は吟力アップは勿論だが①自分に合つた吟題の選択②CD伴奏、句毎の時間調整、服装、姿勢など細部にも配慮が必要と感じたことである。



教場たより

千鳥が淵で花見吟行会

神田教場吟行ハイキング

神田教場今年の観桜会は奥多摩と衆議一決、四月八日早朝新宿駅に集合、七時四三分発「奥多摩ホリデー快足号」に乗り込んだ。先ずあきる野市西多摩靈園に新しく建立された吟魂碑（龍吟第一九号参照）を訪ね宗家信条に続いて数吟を捧じた。

多摩丘陵に降り注ぐ青天の朝日を浴びきれいな空気を腹一杯吸い込んで心地よいひと時を過ごした。次いで足を御嶽迄伸ばし奥多摩渓谷の水際近くのピクニック場で持参の弁当を拡げたが、折りから多摩川周辺の桜もほぼ満開に近く排気ガスも埃も無い青空の下、願つてもない絶好のお花見となつた。続いて吊橋を渡り「川合玉堂美術館」を見学更に渓谷遊歩道を下り、沢井駅付近の吊橋「楓橋」を渡つて対岸の寒山寺に詣でた。

ここは嘗て蘇州寒山寺から贈られた釈迦仏木像を祀ると云われ、林教場長の鐘撞きで一同祈念の後「楓橋夜泊」他数吟を捧じた。

当日はここで解散となつたが絶好の日和に恵まれ楽しい一日であった。

（神田教場 赤澤 弘三）

四月二日、丸の内第二、東陽町両教場合同の花見吟行会を、北の丸公園・千鳥が淵を散策のあと、宮崎県東京ビルで懇親会という運びで開催されました。

丸の内第一、清水、ハザマの各教場からも参加いただき、総勢六四名と予想を上回る大盛会となりました。

残念ながら桜は咲き始めたばかりでしたが、お濠に向かって伸びる枝先の可憐な花の蕾は満開時の見事さを想像させるに十分でした。途中、北の丸公園の広場で爽やかな春の風を胸一杯に吸い込んで、岩田先生の先導で「九段の桜」他を大合唱。

懇親会場では女性陣持参の手作り料理も加わって、和気藹々の雰囲気の中、吟が次々に披露され、楽しい時間を過ごしました。

入会させて頂いて一年八か月、毎週一回の教場にもなかなか出席出来ず、最近ようやく雰囲気にも慣れて、吟の皆様方には本当に良く思っています。

まだ吟を楽しむ所までいきませんが、十年先を目標に、ミレニアムを機に、のんびりと気楽に楽しんで行こうと桜花の下、心新たに思つた一日でした。

（丸ノ内第二教場 広田 イミ）

名勝「清澄庭園」涼亭で「春を詠う」



東京で桜の満開が報じられた翌日、四月七日に江東区にある名勝清澄庭園の涼亭で、清水教場設立三周年の記念温習会が開かれた。

岳精会詩合吟に続いてご挨拶に立たれた飯田会長から、四月一日付けで当教場の村上恒山が教場長に、大槻鉢泉が副教場長に就任した旨のご披露があり、この日の温習会に花が添えられた。

第一部の吟詠は、清水教場全員の合吟「勸学」陶潛作に始まり、次いで「春を詠う」という主題のもとに十五人の会員それぞれが選んだ吟題を各々の思いを込めて詠い上げた。

続いて来賓の方々の吟詠を拝聴したが、飯田会長の短歌「行きく」が、飯田会長の短歌「吹く風を」源義家作の桜花二題で感動は最高潮に達した。出席者全員による大合唱「富士山」で吟詠の部を閉じた。

第二部は懇親会、磯田副会長の「富士山」で吟詠の部を閉じた。

（丸の内女子は2頁に掲載）

編集後記

思いがけず編集担当を四月から引き継ぎました。

吟歴の浅さと、不慣れなワープロ編集で読み辛い点が多いと思いますが、スタッフの皆さんに協力願つて次号以降改良に取り組んでまいりたいと思います。

ご多忙にも拘らずご寄稿下さった沢山の方、有難うございました。

なお、本年度は五、九、一月の三回発行を予定して居ります。

◇ 神田教場
柏川 恒夫氏（三月入会）

明治四二年生まれ九二歳、本

会最長老の新会員です。三菱銀行退社後まだ現役の実業人、声が出なくなつて来たと思われた

しゃくとしてアフター吟までお付合いして下さっています。

◇ ハザマ教場
二宮 祥修氏（三月入会）

懇親会の持主で、期待の新会員です。入会以来熱心に定期例会に参加され、独吟練習も非常に積極的です。

豊かな声量の持主で、期待の新会員です。入会以来熱心に定期例会に参加され、独吟練習も非常に積極的です。

（丸ノ内女子は2頁に掲載）

編集後記

【新会員紹介】

◇ 神田教場
柏川 恒夫氏（三月入会）

明治四二年生まれ九二歳、本

会最長老の新会員です。三菱銀

行為退社後まだ現役の実業人、声

が出なくなつて来たと思われた

しゃくとしてアフター吟までお

付合いして下さっています。

（清水教場 宮武 保義）

（清水教場 宮武 保義）

（八田）